



町の子供は町で育てる

「3つの合言葉」元氣・学び・会話

滑川町教育委員会だより

「学んでよかった町へ -チーム滑川での教育-」

声なき声を感じる

If I must die Refaat Alareer

If I must die you must live to tell my story

もし私が死ななければならないのなら あなたは生きなければならない 私の物語を伝えるために

to sell my things to buy a piece of cloth and some strings (make it white with a long tail)

私の遺品を売り 布切れと 少しの糸を買うために (長い尻尾のついた白いものにしておくれ)

so that a child, somewhere in Gaza while looking heaven in the eye awaiting his dad who left in a blaze

ガザのどこかにいる子どもが 天を仰ぎ見て 炎に包まれ旅立った父を待つとき

- and bid no one farewell not even to his flesh not even to himself -

- その父は誰にも別れを告げられなかった 自らの肉体にすら 自分自身にすら -

sees the kite, my kite you made flying up above and thinks for a moment an angel is there

あなたが作る 私の凧が 舞い上がるのを子どもが見て ほんのひととき 天使がそこにいて

bringing back love

愛をまた届けに来てくれたと思えるように

If I must die Let it bring hope let it be a tale

もし 私が死ななければならないのなら それが希望をもたらしますように それが物語となりますように

※これはリファト・アライル(Refaat Alareer)さんの詩です。彼はガザ・イスラム大学の教授で詩人であり、パレスチナ人の権利を訴え続けましたが、2023年12月、イスラエル軍の空爆により亡くなりました。世界中の戦争を止めたいと願う人々の間で、今この詩が謳われています。坂本美雨さんがこの詩にメロディーをつけてシングルリリースしています。

「8月や6日9日15日(はちがつや むいか ここのか じゅうごにち)」という詠み人知らずの歌があります。広島、長崎の原爆記念日、そして終戦記念日と私たちが忘れてはならない日を詠っています。このため、毎年8月にはメディアは戦争や平和に関する特集や報道を集中させます。この現象を揶揄を込めて8月ジャーナリズムと呼ぶことがありますが、この時期に戦争と平和について改めて考えることは大きな意味があると思います。今年は、先の敗戦から81年を迎えました。人口の9割が戦後生まれとなった今、戦争を直接経験した人がとても少なくなってしまうました。

「いまの日本では、日本がアメリカと三年八ヶ月にわたる大戦争をしたことを知らない人がいっぱいいる。かなりの大人のなかにも『それでどっちが勝ったの?』とわたくしに尋ねる人さえいるのです。あいた口がふさがらないとは、まさにこのこと。情けなくります」(半藤一利、『戦争というもの』,PHP研究所)。戦争の記憶の継承が大きな課題となる中、私たちは、改めて不戦を誓い、反戦を訴え、非戦の道を探し出さなければなりません。

滑川町では、毎年この時期に「戦争と平和を考える写真パネル展」「平和学習事業(ピースバスツアー等)」を実施しています。また、本年度は大塚町長の肝いりで「滑川町中学生平和学習派遣事業」を実施しました。募集に応えてくれた8名の中学生が広島を訪れ、全国平和学習の集い参加、平和記念式典参列など多くの平和学習に臨みました。

今回のプログラムの一つに原爆資料館、正式には広島平和記念資料館見学がありました。この資料館は1955年に開館し、8代目の館長さんに川本義隆さんという方がいました。すでにお亡くなりになりましたが、川本さんは旧制広島一中、現在の広島国泰寺高校の生徒でした。広島一中の教室で被爆し、45人のクラスでたった一人だけ助かった方です。こんな言葉を遺しています。「この資料館は、人間の叫びだと思えます。やはり、人間として声なき声を心で感じてもらいたいと思えます。いつもそう願っております」

私たち人間は、直接体験したことでないことでも想像力を駆使して、他者の体験を擬似的に体験することができます。8月6日の毎日新聞の読者投稿欄に「戦争、原爆を繰り返さない」と題する14歳の松川遥香さんという中学生の文章が載っていました。最近、広島平和記念資料館を訪れたそうです。「印象に残った展示があった。三輪車と鉄かぶとの展示だ。それは、当時3歳の男の子のもので、その三輪車で遊んでいるときに被爆したようだ。それをみて何ともいえない感情が込み上げた。胸が締め付けられた」と綴られています。戦争の記憶が薄れ、威勢のいい議論が「カッコいい」とされる空気が強まっているように思います。とても危機感を持ちます。以前は違いました。いかに平和をつくるかを語る方が知的で先進的だと受け止められていました。

今回の平和学習派遣事業に参加してくれた8名の中学生は、9月7日(月)に校内で、14日(月)に町役場で学習の成果を発表します。中学生たちがどんな声なき声を聴いたのか。発表を楽しみにしています。そして、知的で先進的な平和の創り手、未来の創り手が一人、また一人と増えていくことを期待します。

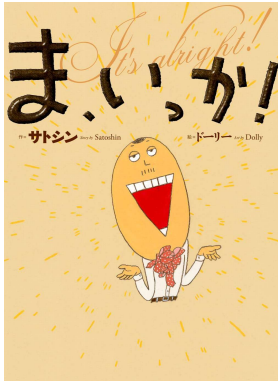


図書館からのおすすめ絵本



図書館オリジナルキャラクター
ブックろう

図書館では、家族と一緒に本を読むことで、読書に親しんでもらうとともに、
家庭内のコミュニケーションを深めることを目的とした「家読」(家庭読書)を推進しています。
こどもも大人も楽しめる、家読にぴったりの絵本をご紹介します♪



『ま、いっか!』
サトシン 作
ドーリー 絵
えほんの杜

『ま、いっか!』

こんな人におすすめ

ついつい頑張りすぎてしまう方へ

表紙であっけらかんとした表情をしている、この男性は「テキトーさん」。テキトーさんは、どんな時でも慌てず騒がず「ま、いっか!」と、どこ吹く風。そんなある日の朝、テキトーさんは大寝坊し、会社を遅刻してしまいます。しかし、テキトーさんは慌てません。気持ちを切り替えて、会社に向かいます。会社に向かう途中も様々なことが起こりますが、「ま、いっか!」と言いながら、とっても楽しそう。テキトーさんは、会社にたどり着くのでしょうか…。

ついつい頑張りすぎてしまう方、うまく肩の力が抜けない方の心の中に、ふらっとテキトーさんが現れて、少しでも気持ちが軽くなればいいなと思います。

※この本は、滑川町立図書館に所蔵があります(貸出中のときは予約ができます)

文化財シリーズ!
第18回

「滑川町の歴史」 part18



特別号! 館務実習生による企画展示 ～ウマと日本文化～

エコミュージアムセンター
オリジナルキャラクター

今月号は特別号として、学芸員課程の一環でエコミュージアムセンターにて館務実習を行った学生が企画した馬に関する展示の一部や関連する滑川町の資料などを紹介します。

絵馬…もともと神々に本物の馬を献上していました。献上された馬を神馬と呼びます。時代とともに、代用として「馬像」や簡略化された「絵馬」が奉納されるようになりました。

馬頭観音…福田地区にある馬頭観音は、伝承では宝亀9年(778年)に白髪のお僧がこの地で百日の祈願を行い、その願いを馬頭明王が聞き入れてくれました。そのお礼として、

老僧が晴照庵を造り、自作の馬頭観音像を安置したと言われています。現在の馬頭観音堂は、奉納された馬の絵馬や額などがあり、以前は2月19日が縁日で、昭和頃には絵馬売りが行われていたこともありました。この絵馬は、神仏への奉納用ではなく、家畜の加護を目的として馬頭観音からいただいた絵馬を自家の畜舎の柱や桁に掛け、家畜の安全息災を祈ったと言われています。



明治10年馬頭観音に奉納された絵馬



成安寺馬頭観音堂

みんなで
見に来てね♪



★実習生による企画展示を、エコミュージアムセンターにて展示しています!

展示期間:9/1(火)~9/27(日) 10:00~17:00

○9月の休館日:毎週月曜日及び9/20、9/22、9/23は、休館日のため休展です。